

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1170201691		
法人名	株式会社マシメディカルサービス		
事業所名	グループホーム ラポール北原台		
所在地	埼玉県川口市北原台1-6-1		
自己評価作成日	平成22年12月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/information_Public.do?cd=1170201691&amp;scd=320">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/information_Public.do?cd=1170201691&amp;scd=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	(有)プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2F
訪問調査日	平成22年12月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・1月の餅つき大会に始まり、さくら祭り、春の全体旅行、ソーメン流し、納涼祭、秋のユニット旅行、クリスマス会を行っている。施設を開放し、地域の方参加も呼びかけている。  
 ・川口市介護相談員制度利用することで、外部の方の視点や意見を取り入れている。  
 ・生活支援目標、ポイント制度の導入により、ご利用者の自立支援に努めている。  
 ・個別ケアでご自宅への一時帰宅や、故郷への墓参り、趣味であった競馬やパチンコの同行など1年に1回行っている。  
 ・経営母体が益子病院であり、医療体制や入院時の受け入れが確保されている。併設のケア付き住宅や、グループに居宅気垂五支援事業所、デイサービス、介護老人保健施設、など多角的に展開して

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

音楽の流れるフロアーには、季節を感じる飾り付けや外出時の写真が掲示され、ゆっくり過ごせるような工夫がされている。日頃から地域の人々との交流が盛んであり、防災訓練にも参加していただく等、地域密着型のホームへの理解を得ている。外部の人や家族の意見を積極的に取り入れるために、介護相談員制度や運営推進会議をうまく活用し、利用者が会議に参加する機会も設けている。利用者一人ひとりの思いや意向を尊重し、職員全員の努力により個別の対応がスムーズに行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	春にさくら祭り、夏に納涼祭を開き、地域にホームを開放している。	フロアの見えるところに事業所理念を掲示し、全職員がこれを日々確認し、把握することにより質の高いサービスを提供している。一年間の目標を決め、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の清掃にご利用者も含め参加している。	自治会に加入し、地域行事の盆踊りや年二回の清掃活動等に参加している。事業所での行事案内を地域の方にも配布し、多くの近隣住民の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事には御家族や地域のボランティアに参加していただいたり、施設周辺の方々にチラシをお配りし、参加・見学を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を行い、ご利用者、ご家族、地域住民に参加していただき、意見交換を行っている。	運営推進会議には、家族5～6名、民生委員、地域包括センター職員等多数の参加があり、活発な意見交換をしている。旅行や外出先も具体的に話し、事業所の取り組みに対して理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川口市介護相談員制度を取り入れている。また、相談員の会議に出席し、事業所の実情について報告している。運営推進会議に戸塚地域包括支援センター職員に出席していただいて意見をいただいている。	市の担当者とは、管理者が訪問や電話にて連絡をとっている。川口市の介護相談員制度を利用し、年3、4回会議にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を考え、フロア入口は常に施錠しているが特定のイベント時は開放している。	外部の人の出入り口は開錠しているが、安全を考慮し、その他は施錠している。利用者のペースを尊重し、行動に対して拘束しない支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で関連法について理解している。虐待事件のニュースや新聞記事があると管理者より申し送られ、記事は掲示板に掲示され全職員目を通せるようになっていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料を作成し、各ユニットに配布している。今後は、研修会実施を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が契約事務・説明を実施し、理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	下駄箱に意見箱を設置し、また、運営推進会議にてご意見を伺っている。	家族の面会時を利用して、家族からの話を聞いている。利用者の希望等は、家族とスタッフで話し合い、援助の際に活かせるよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全体会議、ユニット会議を行い意見交換等を行っている。	日頃より職員からの相談は多く、スタッフの希望に応じて個別に話を聞くよう心がけている。運営に関しては、会議の場で発言が出やすいように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課と目標管理シートによって個々の勤務状況を把握し、目標を達成できるように支援している。また、職場環境・条件の整備にも努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を告知して研修希望者は、勤務として参加できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームを見学したり、戸塚地区のグループホームのネットワーク作りにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご利用者の自宅や入院先などに伺い、直接、ご利用者から不安なことや、ご要望を伺い、できるだけ安心して入居していただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面会時、運営推進会議など、時間の許す限り、話を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族の意向に沿った形でケアプランを作成し、サービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ができる仕事は一緒にやっていたりしている。いろいろな話題で共感し合い、共有の空間を持つよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や面会時、ご利用者の日頃の生活や状態を説明するよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に見えたときには、ご利用者と気持ちよく話ができるよう心掛けている。手紙などご利用者が希望された時はポストに投函している。	美容院、外食、散歩、見舞い、墓参り、外泊等は、家族の協力を得ながら個別に対応、支援を行い、馴染みの友人、家族との関係が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の合う人を隣にしたり、気の合う人同士と一緒に散歩に出させていただいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなったご利用者の葬儀に参列して冥福を祈っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さなことでも訴えがあったら話を聞き、自分で対応できない場合は、他スタッフに相談している。	身近で援助するスタッフの気付きにより把握している。お茶の時間等に、利用者が話せるよう声かけの工夫をしており、希望をサービスに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、サマリー等の参考、スタッフ同士の情報交換などによって努めている。情報不足の部分は、利用者本人、家族から話を聞いて把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、スタッフ同士の情報提供、声かけ、会話等によって努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン会議等を行い、スタッフと意見やアイデアを出し合っている。ご利用者、御家族の希望に沿った介護計画を作成している。	介護計画は、日々の援助の中でスタッフが気付いたことや利用者、家族の希望を考慮し、話し合って作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や、利用者ノート、業務ノートを活用している。自ら記入するときは内容を考えながら記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録、利用者ノート、申し送りノートを業務前に必ず確認し、日々変化するご利用者のケアに対応できるようにしている。また、必要があれば介護計画を見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の夏祭り参加や紙芝居、大正琴のボランティアに来ていただいたり、アニマルセラピーの実施などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期診の他、緊急時病院と連携を図り、適切な処置ができるようにしている。	月二回の内科、月一回の歯科の往診がある。24時間対応で医師と相談したり、指示を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診ノートを活用し、日々、気づいたことを細かく看護師に伝え、情報交換を密にし利用者一人一人の健康状態を把握するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じグループ内に病院があり、医療機関との情報交換と相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合における看取りの指針」についての説明を行い、御家族、ご本人の意向を確認している。	重度化や終末期の方針については、入居時に説明し、家族の協力や医療機関との連携により慎重に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応手順書を各フロアに掲示し、リスク・教育委員会の会議も1ヶ月に1回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を実施し、当日参加できなかったスタッフに対してもマニュアルを作成し安全に誘導できるように徹底している。	地域の方の参加協力を得て、夜間想定避難訓練も行っている。室内移動、スタッフの連絡方法等は具体的なマニュアルを作成し、避難方法を身につけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付け、常に尊敬の気持ちを持って接するように努めている。	利用者に対してニックネームは使わず、敬語を使うようにしている。自然に、さりげない声かけや言葉使いに気をつけ、対応の工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自分の気持ちを表現できるように傾聴の姿勢を常に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアや居室にて自由に生活していただき食事や入浴に関してもその日の体調や気分により時間をずらしたり、中止したりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の服装や髪型に常に気を配りおしゃれが楽しくなるよう声かけをするように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物、食べられないものは他の物を提供したり、片付け等をご利用者に負担にならない程度にお願いしている。	テーブル拭きや片付けは、利用者が無理のない範囲で自分の仕事として行っている。食事の楽しみとして、外食や行事等の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量の記録により、個々の摂取量を把握し、少ない場合はどうしたら摂取してもらえるかどうか検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に口腔ケアを促し、一部介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解し、トイレでの排泄をしていただくようにしている。	一人ひとりの排泄リズムを把握し、排泄サインの把握により個別対応している。周りの人が気付くようなあからさまな誘導はせず、声かけを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として水分を多めに取っていただいたり、体操、散歩等すこしでも動くようにしていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り、一人一人の希望に沿った時間に入浴していただいている。入浴剤を入れて入浴を楽しんでいただいている。	入浴の曜日、時間を決めずに個別対応にて支援している。利用者の希望により、入浴剤の使用等楽しく入浴できるような工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣、体力など状況に応じて休息したり、室温、布団等の量をチェックし必要に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて薬の副作用や用法や用量について理解し、服薬チェック表を用いて服薬確認者を明確化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人役割を持っていただき、この役割を30回実施されると、ご本人の好きなことができるポイント制を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、希望により、買い物へ出かけられたりしている。	基本的に毎日、利用者の希望やスタッフの声かけによる散歩や買い物に出かけている。外出ノートを作成し、記録を残している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物にでかけた時などできる方には、支払いをご自身で行っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をだしてほしいと依頼された時は、ポストへ出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節ごとの壁画を貼ったり、季節の物(例 クリスマスツリー)を飾っている。	季節を感じられるような飾り付けを利用者と一緒に行っている。居間は、利用者がゆったりとした気分で過ごせるような配慮がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座る際は、仲の良い方と隣になるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真などを飾ったり、使い慣れた物を置いている。	居室には、仏壇、布団等馴染みの物の持ち込みが可能であり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。部屋は日当たりがよく、掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故につながらない範囲で制限なく、好きな家具などを持ち込み可能にし、快適に暮らせるようにしている。		